

強者の戦略

東大日本史のみかた 34 [解答編]

こんにちは。日本史の岡上です。さて、今回は日本古代の宮都に関する問題でした。通常、東大の問題は多くの資料文が与えられますが、今回は久しぶりに(2002年 第1問以来) 語句指定の出題形式でした。出題自体は読み取りやすい内容でしたが、資料文が与えられていない分、普段の学習で教科書をどれだけ読み、またしっかりと解釈できているのかが試された問題であったと思います。それでは解説を始めていきましょう。

<日本古代の宮都>

問われているのは、それまでの大王の王宮のあり方と比べて、藤原京ではどのような変化が起きたのか。条件として、律令制の確立過程における藤原京の歴史的意義にふれることが求められています。また、官僚制、条坊制、大王宮、大極殿の語句指定がありますので、解答の流れはある程度限定されますね。

それでは最初に「それまでの大王の王宮のあり方」を確認しておきましょう。大王の王宮=大王宮について、教科書の記述を参考にしながら、進めていきたいと思います。

奈良盆地南部には、大王の住む大王宮を中心に有力王族の皇子宮みこのみややヤマト政権を構成する中央有力豪族の邸宅ていたくが集中し、それぞれに中央の中小豪族、地方豪族や伴などが奉仕していた。

『詳説日本史B』(山川出版社, p. 33)

もともとヤマト政権の大王は、歴代遷宮といって代替わりごとに大王宮を新しく営んでいました。大王宮は、あくまで大王の邸宅であり、政務のための施設が整備されることはありませんでした。その代わりに周辺には「ヤマト政権を構成する中央有力豪族の邸宅が集中し、それぞれに中央の中小豪族、地方豪族や伴などが奉仕」するといった、氏族制による政治が行われていたことが分かります。

6世紀末から、奈良盆地南部の飛鳥あすかの地おおきみに大王の王宮おうきゆうがつぎつぎに営まれた。有力な王族や中央豪族は大王宮とは別にそれぞれ邸宅ていたくをかまえていたが、大王宮が集中し、その近辺に王権の諸施設が整えられると、飛鳥の地はしだいに都としての姿を示すようになり、本格的宮都きゆうとが営まれる段階へと進んだ。

『詳説日本史B』(山川出版社, p. 36)

6世紀末、つまり推古朝の頃からは「飛鳥の地に

強者の戦略

大王の王宮が「つぎつぎに営まれ」るようになり、大王宮の所在地が固定化されるようになりました。大王宮の固定化に伴い、「近辺に王権の諸施設」、つまり政務のための諸施設が整えられていきました。しかし、歴代遷宮の原則が変わったわけではありませんで、「それまでの大王の王宮のあり方」とは、**大王の代替わりによって大王宮が移転すること、また大王宮の周辺に政権を構成する中央豪族の邸宅が営まれ、氏族制による政治が行われていたとすることができ**ます。

続いて、藤原京で起きた変化を見ていきたいと思えます。問題文には、「中国の都城にならって営まれた日本古代の宮都は、藤原京(694～710年)にはじまるとされる」とあり、藤原京が初めて都城制を採用した宮都であることが指摘されています。ここでまた教科書の記述も確認しておきましょう。

藤原京は、それまでの一代ごとの大王宮とは違って、三代の天皇の都となり、宮の周囲には**条坊制**をもつ京が設けられて、有力な王族や中央豪族がそこに集住させられた。そして**国家の重要な政務・儀式的場**として、中国にならった**瓦葺**で**礎石建ちの大極殿・朝堂院**がつくられるなど、**新しい中央集権国家を象徴する首都**となった。

『詳説日本史B』(山川出版社, p. 40 注釈)

まず藤原京はそれまでの一代の大王宮とは異なり、天武天皇の時代に造営が始まり、持統天皇のもとで遷都した後、文武天皇へと引き継がれた**三代の天皇の都**となりました。また、宮の周囲に**条坊制**をもつ京が設けられ、有力な王族や中央豪族が集住させられました。これは、それまで有力な王族や中央豪族の邸宅が大王宮とは別にかまえられ氏族制による政治が行われていたことに対し、**天皇を中心とした官僚制の整備が進められるなか、豪族らが官人化されていったこと**を示唆しています。さらに**国家の重要な政務・儀式的場**として、中国にならった瓦葺で礎

石建ちの**大極殿・朝堂院**がつけられたことは、**藤原京が新しい中央集権国家の象徴**であり、それまでの大王宮のあり方とは一線を画すものであったといえるのです。つまり、**藤原京は律令制の成立過程において、従来の氏族制から新たな官僚制への転換を図るという歴史的意義をもつものである**と指摘することができます。

以上をまとめて、解答を作成してみましょう。

【解答例】

それまでの**大王宮**は代替わりごとに移転し、その周辺に政権を構成する中央豪族の邸宅が営まれ、氏族制による政治が行われていた。それに対し三代の天皇の都となった藤原京は、宮の周囲に**条坊制**をもつ京が設けられ、官人化した豪族が集住させられ、天皇中心の**官僚制**の整備が進められた。また**国家の重要な政務・儀式的場**として**大極殿・朝堂院**がつけられ、新しい中央集権国家の象徴となった。(180字)

さて、みなさんの解答はいかがだったでしょうか？

論述問題の解答はもちろん一つではありませんので、「これはどうだろうか？」と自分では判断つかないものは必ず、添削してもらうことをお勧めします。この『強者の戦略ホームページ』でもメールにて質問などを受け付けていますので、どしどし送ってきてくださいね。

それでは、今回はこの辺にいたしましょう。次回「東大日本史のみかた」をお楽しみに！！